

中学校 2 年生 保健体育科学習指導案

令和 6 年 12 月 20 日

中学校 (2) 年 名

1 単元名 大単元「 傷害の防止 」 小単元 (犯罪被害の防止)

2 単元について

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習している。

ここでは、傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにすることが必要である。また、包帯法や AED（自動体外式除細動器）の使用を含む心肺蘇生法などの応急手当ができるようにすることが必要である。さらに、危険を予測し、その回避の方法を考え、それらを表現することができるようにすることが必要である。

このため、本内容は、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びその相互の関わりによって発生すること、交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること、また、自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで防止することができること、及び迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができることなどの知識及び応急手当の技能と、傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

3 単元の目標

知識・技能	傷害の防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解することができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	傷害の予防について課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力・人間性	傷害の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

4 生徒の実態と指導観

このクラスは普段から仲が良く、明るい生徒が比較的多い。一方で、数人クラスになじめていなかったり人とかかわることが苦手な生徒がいる。また、他の授業では積極的に発言を行っている生徒が多い。

本学習を指導するにあたって、生徒自身に犯罪の怖さや犯罪被害を防止するための安全策や対策を考えさせる。犯罪被害は身近に多くの危険が潜んでいたり、いつ起こるかわからない。そこで、どのような犯罪があるのか、犯罪の危険性などについてしっかりと理解させる。また、犯罪被害にあった友達や身近な人にどのようなことができるのかを考えさせる。そして、自分自身が犯罪被害に遭わないためにどのような対策や防止方法が良いのか、グループやクラス全体で話し合いを行い意見を理解し、生徒のこれからの生活につなげていけるように指導を行う。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<ul style="list-style-type: none">・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因と環境要因などが関わって発生することを理解している。・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に非難することによって防止できることを理解している。・応急手当を適切に行うことによって傷害の悪化を防止できることを理解していると同時に、心肺蘇生法などの技能を身につけている。	傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	傷害の原因と防止			
2	交通事故の現状と原因			
3	交通事故の防止			
4	犯罪被害の防止 ●犯罪被害を防止するにはどうすればよいだろうか。 ●犯罪被害を防止するためにどんな取り組みが行われているだろうか。		○	
5	自然災害に備えて			
6	応急手当の意義と基本			

7 本時の展開

① 本時の目標

「犯罪が起こりやすい場所や場面をもとに、犯罪被害を防止するためにはどうすればいいのかを考え理解しよう」

②展開

段階	学習活動【 学習内容 】	○指導上の留意点 ◇評価
導入 8分	1. 挨拶 2. 本時の目標、前回の復習 3. 本時の内容の確認 4. ワークシート配布（記名する） 5. ニューヨークの治安や足立区の治安について知る。 【犯罪が多い国や地域について考える。】	○本時で生徒自身が自主的に学べるように目標を提示し頭に入れさせる。 ○前回の授業で学んだことを再認識し、本時の内容に繋げさせる。 ○割られた窓と綺麗な窓の二つの資料を見せ、どのように考えるかを問う。 ○『割れ窓理論』のできた理由を取り上げ、身の周りの犯罪について簡単に考えさせる。 ○『割れ窓理論』がなぜ作られたのか事例を挙げて学ばせる。

展開	【犯罪被害の種類と場所について学ぶ】	
27 分	<div data-bbox="271 246 1396 302" data-label="Text"> <p>発問 1：犯罪被害は何が多く、どのような場所で多く起こっているのだろうか。</p> </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の引き金となる三つの条件から想定されることを個人で考える。 ・グループで話し合う。 ・グループで話し合ったことを全体に発表する。 <div data-bbox="271 672 742 817" data-label="Text"> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘拐・詐欺・暗い場所 ・人が少ないところ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場所で起こっているのか、イラストを提示し身の回りには危険がたくさんあることを伝える。 <p>【犯罪被害に遭った場合のことについて考える】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○『犯罪の引き金』の資料を提示し、事例を踏まえて説明する。 ○ワークシートに自身が考えたことを書くように促す。 ○話し合いでほかの生徒の意見に耳を傾けたり、逆に意見を提示したりして生徒たちが積極的に意見交換ができるよう助言する。 ○日常に潜んでいる犯罪被害についてしっかり考えてもらうように促す。 ○通学路や慣れた道などでも安心できないことをしっかりと伝え頭に入れてもらうように促す。 ○現在、何の犯罪が一番多いのかグラフを提示し考えさせる。
	<div data-bbox="271 1209 1412 1265" data-label="Text"> <p>発問 2：もしも犯罪被害にあった場合にどのように対処すればいいか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で考える ・グループで話し合う ・グループで話し合ったことを発表する <div data-bbox="271 1646 742 1792" data-label="Text"> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい声をだす・すぐに頼れる大人に相談する・防犯ブザーを鳴ら </div> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に犯罪被害に遭ってしまった場合の対処法について先生が見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○犯罪被害にあった場合にどのようなことが起こるのか考えさせ意見を提示するように促す。 ○助けを求める場所はたくさんあることや、すぐに相談することの大切さなどを伝える。 ○実際に自身が犯罪被害に遭った場面を想像してしっかりと考えるように促す。 ○グループ活動ではメモを取るなどして記録を残すように促す。 ○生徒の反応をしっかり見ながら実演を行い、自身のこととして考えさせる。

<p>(駅までの道がわからないからついてきてほしい) (あそこで人が倒れているから一緒に助けてほしい)などの実演</p> <p>【犯罪防止のとりくみについて知る】</p>	<p>○生徒が言葉に詰まるまでできるだけしつこく誘いしっかり断ることが出来るようにさせる。</p>
<p>発問3：犯罪被害を防止するにはどうすればよいだろうか。また、どのような取り組みが行われているだろうか。</p>	
<p>・グループで考えや意見を出し合う。 (三つのグループに意見を出してもらおう。)</p> <p>・話し合ったことを発表する。</p> <div data-bbox="264 918 759 1081"> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で登下校をしない。 ・暗いところは通らない。 </div> <p>・教科書 P115 の考える・調べると資料2を見て、どのような取り組みが行われているかを知る。</p> <p>・自分の身は自分で守る、被害に遭わないための対策をしっかりと行う大切さを理解する。</p> <p>・いかのおすしを提示して犯罪防止のスローガンということを理解する。</p> <p>【犯罪の危険性について再確認する。】</p> <p>・ながら見守りなどの地域の連携が大切だということについて考える。</p>	<p>○教科書 P114 の資料1 に注目させ、防止策について考えるように促す。</p> <p>○犯罪被害を防止する、自分の身は自分で守るということの大切さについて伝え生徒に考えさせる。</p> <p>○生徒から出た意見を2～3個のグループに分けたグループごとの対策方法を考えさせる。</p> <p>○校区内の危ない場所をマップで提示し、頭に入れてもらうように促す。</p> <p>○『いかのおすし』を提示して、意味を理解させる。</p> <p>○いかのおすしという犯罪防止スローガンの意味を答えさせ自分の身を守る為に大切だということについて頭に入れさせて、役立たせるように促す。</p> <p>○ながら見守りなどの地域の人たちによる犯罪防止の活動があるということについて頭に入れさせ、大人たちを頼れるということについて理解させる。</p> <p>○P130 の探求2 のインターネットを通じた犯罪被</p>

	<p>・直接関わる犯罪意外にもインターネットや SNS のように間接的に関わる犯罪も多いことを理解する。</p>	<p>害の防止について、間接的な犯罪被害があるということを、事例を挙げて説明し対策を考えさせる。</p> <p>◇傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。(思考・判断・表現)</p> <p>〈A 評価とするポイント〉 傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合うことができている。また、知らない人に声をかけられたら車または人の腕の長さ二つ分距離をとる、通学路は人通りの多い道を選択するなど犯罪から自分自身を守るための具体的な対策を書き出している。</p> <p>〈C 評価とするポイント〉 本時の内容を踏まえて、学習した内容を理解していないため、グループ活動で自身の意見を積極的に発言していなかったり、犯罪から自分自身を守るための具体的な対策などを書くことができていない。</p> <p>〈努力を要する生徒への手立て〉 個別に指導したり学びやすい資料を提示したりして、犯罪から自分自身を守る為の対策について考えてもらおう。</p>
--	--	--

<p>まとめ</p> <p>10 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめ ・ 本時の振り返り <p>【犯罪から自分の身を守る為の対処法や、実際にそれが行えるのかなどについて再確認を行う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶 	<p>○実際に本時で伝えた対処法が行えるのか、また伝えた対処法以外にも様々なものがあることを伝え意識をしっかりと持ってもらうように促す。</p> <p>○本時で伝えた様々な対処法について思い出すように促す。</p> <p>○本時の授業でどのようなことを学べたかなど内容を思い出させながらワークシート等に学んだことについて記入させ、実践してもらえるように促す。</p>
------------------------	---	---

8 板書計画

12/20(金) 犯罪被害の防止		発問 1: 犯罪被害は何が多く、どのような場所で多く起こっているのだろうか。 〈多い犯罪〉 〈場所〉
本時の目標	割れ窓理論について の資料	
犯罪の引き金となる 3 つの条件		
子供に多い犯罪件数のポスター	発問 3: 犯罪被害を防止するには？また、行われている取り組みについて	『犯罪防止のスローガン』 いか の お す し
		ながら見守りと地域連携のポスター

9 資料

- ・教科書 P114 の資料①
- ・教科書 P115 の考える・調べると資料②
- ・教科書 P130 の探求 2(インターネットを通じた犯罪被害の防止)
- ・資料①:割れ窓理論
- ・資料②:犯罪件数のグラフ
- ・資料③:いかのおすし
- ・資料④:ながら見守りと地域連携のポスター